

資料 2-2

2021年6月23日
第1回哺乳類WG資料

みなかみ BR ニホンジカ低密度下の捕獲試験実施計画 2021（令和3年）

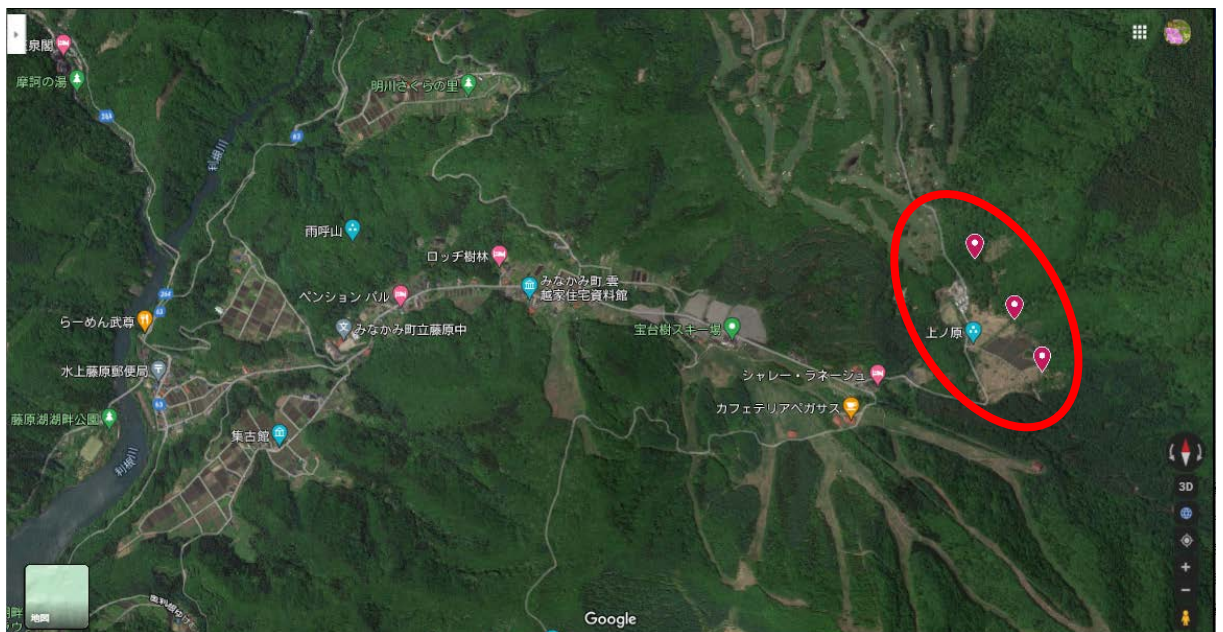
公益財団法人日本自然保護協会
生物多様性保全部

1 捕獲試験の目的

侵入初期段階にあるニホンジカへの総合的な対策に取り組むとともに、その成果を発信し日本全国の森林生態系管理へ波及させることを目指す。

2 実施場所

実施場所は、協力者が得られる場所で行う。また、昨年度のセンサーカメラでのニホンジカ及び他の動物（カモシカ、ツキノワグマ、イノシシ）の出現状況から、みなかみ町藤原（上の原）を試験場所として選定した。※宝台樹スキー場の北側



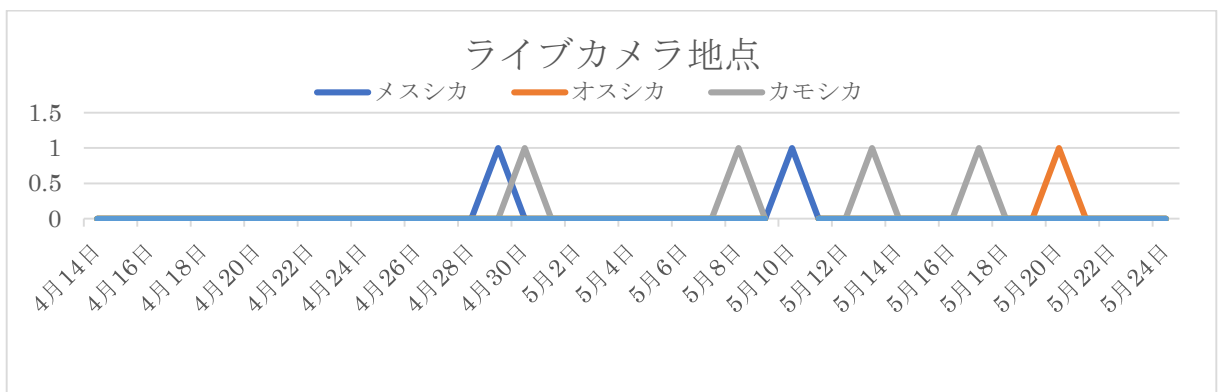
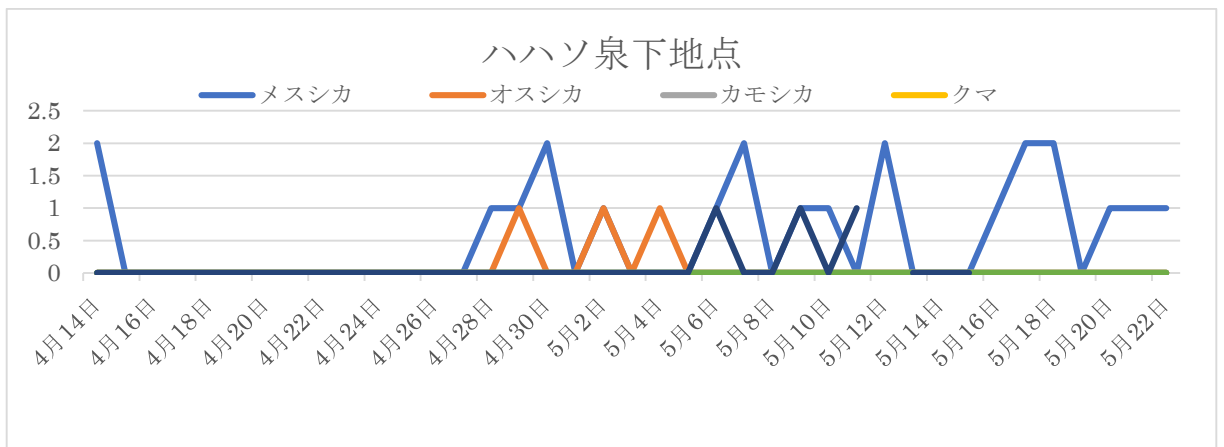
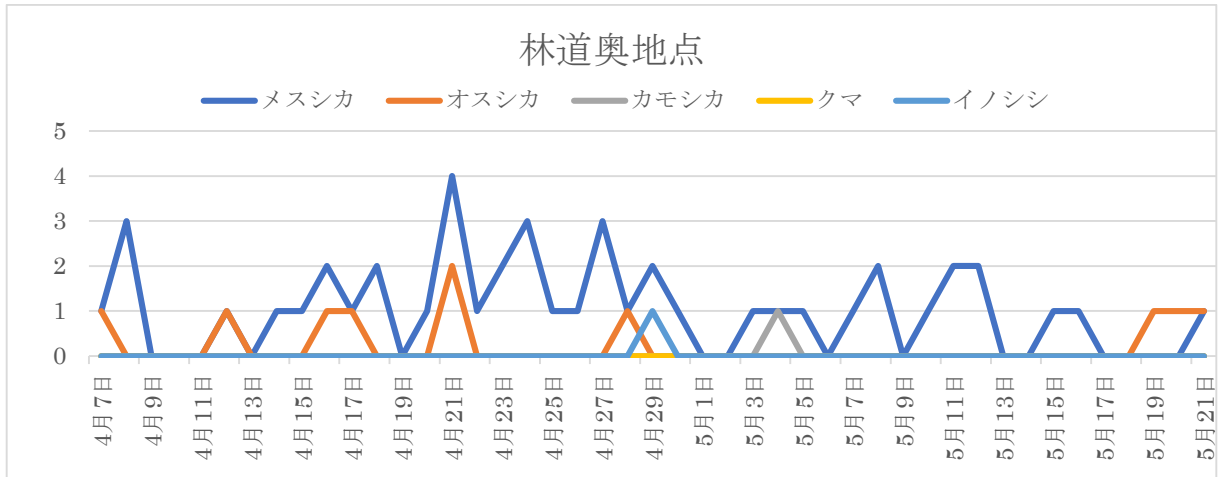
3 捕獲試験の方法

長期的に効率の良い捕獲方法を検討するため、夜間も含め捕獲可能な方法である「くくり罠」による捕獲試験とした。準備段階からセンサーカメラを設置、ニホンジカの出現状況の把握を合わせて行う。本試験を通し、主に以下の点について確認、評価を実施する。

- ・ 捕獲効率と捕獲方法の検討（準備及び当日の捕獲に関する人的・資金的コスト等）
- ・ 錯誤捕獲の発生状況
- ・ 取り逃し個体の発生状況
- ・ 許認可や届け出、安全管理等の体制整備
- ・ その他、捕獲実施上の課題等の確認

4 試験予定地点でのニホンジカ等の出現状態

上の原の3か所に設置したセンサーカメラより、試験直近のシカや他の動物の出現状態を把握した。林道奥地点及びハハソ泉下地点では、ニホンジカのメスが頻繁に確認されることから、この2か所にワナを設置することとした。また、昨年度の試験地であるライブカメラ地点では、カモシカの誘引がみられることから、ワナの設置を見送った。



5 捕獲準備と運営

ア 誘引

2021年6月1日からは再度、誘引資材（鉍塩）を設置し、センサーカメラ（動画モード及び静止画モードを各1台）で観察する（1～2月に1回データ回収及び電池交換などのメンテナンスを実施）。

イ 罠の設置

使用するくくり罠は、ツキノワグマの錯誤捕獲が少ないとされる「スーパーマグナム」18台（3箇所×3台）とし、法令通り設置箇所に掲示を行う。設置は、稼働しない状態で6月1日に設置し、捕獲は、6月18日以降実施する。



ウ 見回り及び止め刺し

実施期間中は遠隔操作・通知が可能なセンサーカメラを設置し、現地の状況を把握する。その他、1週間に1～2回、見回りを行う。ニホンジカの捕獲があった場合はその場で電撃器等により止め刺しを行う。

ツキノワグマ、カモシカ、イノシシ等の錯誤捕獲が発生した場合に備え、実績のある外部の者（群馬野生動物事務所）に協力を仰ぎ、錯誤捕獲があった場合に対応する。

なお、カモシカを錯誤捕獲した場合は、群馬県教育委員会へ報告する。

6 実施体制

- ・誘引捕獲手法について実績のある群馬県林業試験場、坂庭氏の技術協力を得る。
- ・学術研究のための捕獲とする（群馬県知事あてに許可申請）。

7 捕獲後の処理

殺処分（埋設）

8 安全対策

実施の際は決められた方法で掲示を行うとともに、事前に関係者への告知を実施する。

以上